

集落をサルの餌場にしない！

～ 集落内の環境整備と徹底的な追い払いによって被害を防ぐ ～

研究の背景・目的

島根県におけるニホンザルの現状
・2007年調査：約49群れ、1730頭
・家庭菜園を中心に被害発生
・2011年の被害金額は約200万円

**「集落・農地」＝「サルの餌場」という関係を断ち切る
ことが必要不可欠！**

なぜ被害が発生するのか？

現在、集落の農地がサルにとって格好の餌場になっているからです。集落が餌場でありつづける限り、サルは集落に来ることをやめず、機会を見つけては農作物を食べ続けます。

そのため、地域住民が一体となった広域的な被害対策（誘引物の除去、徹底的な追い払い、防護柵設置など）の取り組みが必要です。

研究方法

「鳥獣被害緊急対策モデル事業」のモデル地域（川本町）において、地域が一体となって、集落をサルの餌場にしない取り組みの効果検証を行います。出没・被害状況を集落の土地利用や森林環境などから分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、効果的な防護柵を開発・実証します。

研究状況

川本町中倉地区のサルの出没は、2011年6月には増加しましたが、7～10月は出没がなく、11月と3月には再度出没したものの、いずれの月も数件と少ない出没でした。群れやハナレザルの出没は合計24件認めましたが、このうち22件（99%）は追い払いを行っていました。追い払い方法は、ロケット花火4件、人が大声などで脅す10件、銃器9件、その他（爆竹、クラクション）2件（重複実施あり）でした。農地一筆マップにサルの出没状況を重ねてみると、集落内の山際への出没が多い状況でした。集落住民との意見交換会では、「前年に比べてサルの出没は少なかった」、「サルはどこにいったのか」などの意見を多く聞きました（図1）。集落内の環境整備と徹底した追い払いによる集落ぐるみの取り組みの効果が出始めています。

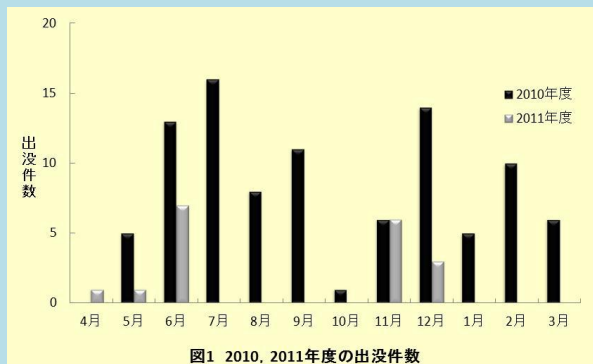


図1 2010、2011年度の出没件数

研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、集落をサルの餌場にしない取り組みと継続的な追い払いによる被害軽減効果が実証できれば、効果的な取り組みとして、県内全域へ普及させることができます。

また、集落一体となった広域的な取り組みによって、サルが出没しにくい集落となれば、集落の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

試験研究課題名： 集落をサルの餌場にしない取り組みと地域一体となった被害対策の実証モデルの検証（研究期間：H21～24）

担当グループ： 鳥獣対策グループ

研究担当者： 澤田 誠吾（さわだ せいご）

問い合わせ先： 0854-76-3818（直通）

E-mail： chusankan@pref.shimane.lg.jp



MRRC
MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター